

SASUE LIBRARY
町立
指江図書館
TEL0996-88-6500



僕を支えた母の言葉

町口 嘉則 著

母の、愛の力の偉大さを感じさせられます。21枚の写真が美しく、5分程度で読める本です。

TAKANOSU LIBRARY
町立
鷹巣図書館
TEL0996-86-1111



こちらたまご応答ねがいます

岸 信子 著

（精神が）受けても、ごみなれど、たたく書か、さ、で、たたく書か、尊ま、で、たたく書か、のなるが、せひ親、たい本、生命の尊ま、で、たたく書か、卵にも分るが、せひ親、たい本、

新刊紹介
町立図書館おすすめ

図書館においてある最新本の中から、おすすめのものをごピックアップ。バラエティに富んだ新刊をご紹介します。

Pick Up New publication

長島 文芸

ながしまぶんげい

明神俳句会

藁に寝てただ反芻の田搔牛
降る音も流るる音も男梅雨
一万歩父の日からの日課とし
シュレッタの音むしゃむしゃと梅雨長し

田搔牛鼻曳く童叱りつつ
牛ねむる藁の中まで梅雨に入る
牛小屋に子燕かえり過疎の村
降り続くあまたれの音寝もやらず
人待つや紫陽花色の雨の中

長島短歌会

夕風ぎて灯りの点れる小浜港夜釣りの船のエンジン響く
助産婦にて九十六歳生き給ひ梅雨晴れの朝御仏なれり
「おばあちゃんお湯がないてる」と孫告げるさば
荒雨はダムに溢れて濁りをり瀬戸の生簀をめぐりて流る
灯台の淡き灯りの見へ初めぬ陽は天草に消へてまもなく
多産せし牛を競場に運搬す車に乗るを踏み張り拒む
ひとり居の夜中の地震に怯へつつ夜明け待つ間の刻を確かむ

降る雨を終日眺めし義母の座にひとりとなりし今わが座る
白花を好みて植へし紫陽花の時経て青色に変わりを寂し
「だっこして」と諸手出す孫抱き止むる温き幼の匂ひとつともに
病みつつも喜寿の祝を盛り上げし同級の友恙無くあれ
唐突に出づる鼻血に蓬もみ嫁は素早くわれに与ふる

創生短歌会

釜石に旅せし縁ある故にかの旅館かの女将想い出さるる
父の日の今日も過ぎたり母の日もこれぞの事も無くて暮れゆく
種子とするグリーンピースを剥きており上がり框に蚊を追いながら
熱湯をかけて三分待ついとま死を待つこともあるいは楽し
最新には自宅で逝かんと妻の言う施設の窓の空ながめつつ
行く時も帰るも一人晴ればれと石榴の花の下歩み来る
一日が無事に過ぎればそれでよし竹の子炊いて三度の食事

一般作品

「俳句」
此の夏のTシャツに憧れ来し五月
「短歌」
我事や人生有て値打有此の世去りては何もならずと
娘らの自転車きしむ気にしつつかつと買いかえ誕
生祝う